奈良県立医科大学・MBTコンソーシアム
MBT NEWS LETTER
第420号
‘26/10/07

10月4日（日）『熊本地震10年「災害関連死を考える会KARIN Project」講演会』が東大寺総合文化センター金鐘ホールで開催されました
MBTコンソーシアムは開催趣旨に共鳴し“後援”で支援しました

・表題講演会は、奈良県大和高田市にある健生会土庫（どんご）病院の災害対策委員会（委員：中尾武 消化器外科医、1994年奈良医大卒業）が主催して開催されました。

・中尾武氏は、DMAT（災害派遣医療チーム）活動を通じた災害医療への実践的な取組みを行いながら、救命活動だけではなく、その後の被災者支援にも深い関心を持たれ、災害時の情報収集・共有から災害関連死の予防まで、災害後の『命を守る仕組み』を考えられている医師です。

・その中尾武医師が、この度、2016年4月14日にM6.5、そして2日後の4月16日にM7.3と、２度の大地震に襲われ大被害が出た熊本地震から10年を経た今日にあって、この大地震を体験し、人命や被災者救済に活動を続けられた方々を講師に招き、今後に備えて奈良県内での認識を深め、種々取組みを考えるきっかけ作りにと、本講演会を企画・開催されたものです。

・講師には、心臓病を患っていた4歳の娘さんを災害関連死で亡くし「災害関連死を考える会」を発足させ全国を講演行脚される宮崎さくら様や、患者さん避難の転院搬送に立ち会った医師、災害関連死認定に立ち会ってきた弁護士らが演壇に立ち、生々しい貴重なお話を聴く機会となりました。

・MBTコンソーシアムと奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）は本講演会を支援し、熊本県八代市の震災避難所で行われているDVT（深部静脈血栓症）検診の様子をスターリンク通信衛星を用いて映像で会場に届けました。

・また、本講演会に参加した細井裕司MBTコンソーシアム理事長は、最後に感想を求められ、“中尾先生の災害関連死を何とかして防ぎたい、支援したいという気持に感動した、また多くの人に啓発する、しかるべきところに要望する、ことは重要なこと“と、自身の軟骨伝導イヤホンの普及体験談を踏まえて締めくくられました。

①金鐘ホール会場の様子
②主催された中尾武医師
③講演する宮崎さくら氏
④本講演会の締めで感想を述べる細井裕司MBTｺﾝｿｰｼｱﾑ理事長
⑤スターリンク通信衛星で講演会配信を説明するNAIST辻井高浩氏

発行
（一般社団法人）ＭＢＴコンソーシアム、　（公立大学法人）奈良県立医科大学
奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内　担当　塩山
ＴＥＬ：0744-29-8853（直通）、ＦＡＸ：　050-3164-5598、　Email：mbt@mbt.or.jp